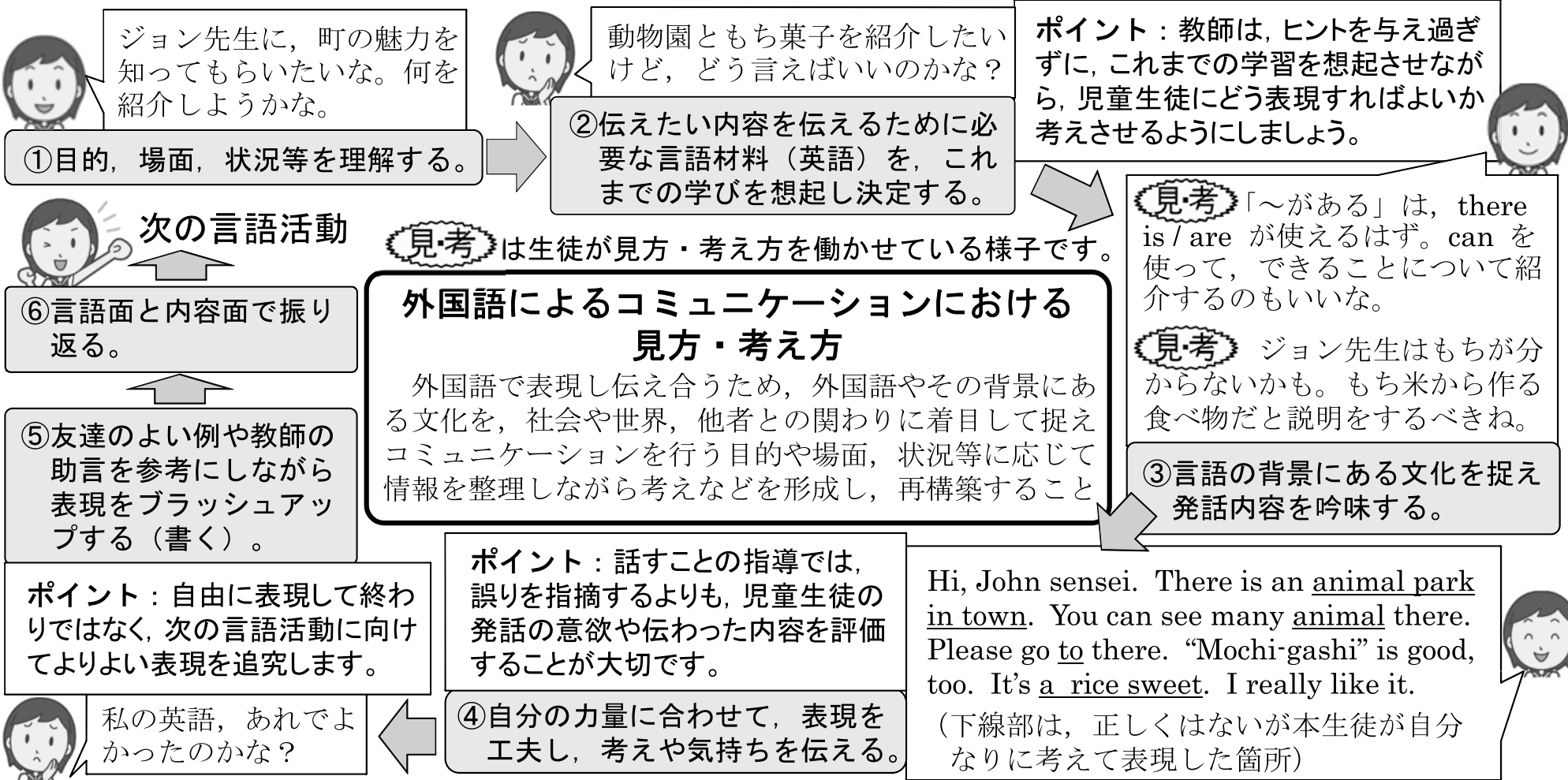


習得した語句や文法等の知識の量に目を向けるだけではなく、それらを実際のコミュニケーション場面で何度も活用させ、実際に使えるものとして児童生徒に定着させていくことが重要です。児童生徒が、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることができる言語活動を効果的に設定しましょう。

例) 言語活動の学習過程 新しく来たALTの先生に、自分たちの町を紹介しよう！(中学校第2学年)



児童生徒が決まった対話の型を覚え、練習し、それを正確に発話することを目的とした活動に偏重するのではなく、自分の本当の考えや気持ちなどを伝えるために思考・判断する言語活動を繰り返し経験させることで、必要な資質・能力の育成を目指しましょう。